

ショートプレゼン

11:00-12:10

「コロナ禍、そして、その先に向けた熱い取り組み！」

【テーマ2】移動の価値、再発見-アフターコロナのヒントを社会学の視点から探ってみよう！-

(コメンテーター：大野 悠貴 名古屋大学大学院研究員)

「やはり実際に見て・聞いて・触ってみないと」「やっぱりこの時間・場所でないと」といった、
移動の先でもたらされる「体験」「交流」の大切さに着目した取り組み

① 「かなみおでかけサポート」(静岡県函南町)

地域住民がボランティアとして居場所への参加を「移動」の面からサポート

② 「おでかけリハビリ」(北海道函館市)

～買い物・食事・交流で人・町を元気に！～「おでかけリハビリ」のご紹介

③ 「コロナ禍の新たな移動促進ワーケーション、関係人口へつなぐ」

地域事業者や自治体も参画するワーケーションプラットフォームのエコシステム

テーマ2の趣旨説明 – 社会学とは？ –

◆社会学…胡散臭いイメージが強い（笑）

- 説明が難しい。「社会を研究する学問」

◆社会は、「実態」「規範」「認識」が乖離しているのが常

- ▶常に合致していれば、各分野の専門が存在すれば済む
- 公共交通の利用者が減少していて問題だ
- 公共交通の利用者が減少しているのは問題とされるべきだ
- 公共交通の利用者が減少しているらしい

テーマ2の趣旨説明 – 社会学とは？ –

◆社会には、「ズレ」や「取りこぼし」があり、それを明らかにするために社会学は存在する

- 見慣れたものを見慣れないものにするのと、見慣れないものを見慣れたものにする（ジグムウト・バウマン）
- 「常に疑ってかかれ」（学生時代の教え）

◆「移動」という“人の行為”とは何か？ 「移動」の価値とは何か？

アフターコロナの移動の価値

「情報技術によって大体のことを済ますことができる」という可能性がセットされると、…（中略）…あえてその時間 - 空間にわざわざ出かける」という冗長さ（リタンダンシー）が多くの活動についてまわる（田中大介『情報化する社会／体験化する都市』2018）

◆例えば、コロナ禍による「テレワーク」という“経験”

- 「通勤」という移動に、「あえて」「わざわざ」という冗長さを人々の意識に付与した
- 少なくともコロナ禍以前と比べて、「通勤」は人々にとって必要な移動ではなくなった

アフターコロナの移動の価値

「やはり実際に触れないと・見ないと・聞かないと」といった身体感覚の特権性や「やっぱりこの時期・この場所でないと」という時間 - 空間の希少性が、「特別な体験」をもたらす付加価値や理由付けとして語られることもある。

(田中大介『情報化する社会／体験化する都市』2018)

◆目的地で得られる「体験」に接続することで、「移動」の価値が見出される

- 非日常の体験：音楽ライブ、スポーツ観戦等の「イベント」 (の消費)
- 日常的な体験（身体的特権、時間-空間的限定性） → ?

日常レベルで「移動」が選択される「体験」

交流

- オフィスに求められる機能の変化（通勤）
 - ▶ 「作業する場」 ↓、 「交流する場」 ↑、 「保管する場」 →
- 病院に通う本当（？）の目的（通院）
 - ▶ 「友人・知人とおしゃべりするため」という話は、調査などでよく聞く

日常的な「体験」 = 「交流」に接続することで、
「移動（おでかけ）」という“行為”の選択につながる

コロナによって、移動は減少したのか？

◆社会学における「交通」「移動」の概念

- 「人と人との交わり」、「人間のコミュニケーション」も含む
(カール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルス)
- 「映像と情報の移動」、「通信のなかでのバーチャルな移動」も含む (ジョン・アーリ)

◆テレワークしている会社員の方は、zoomという乗り物と、インターネットという道路を用いて、「精神的に通勤」している

コロナ禍は「精神的移動」が増加した

◆インターネットを通じた情報空間・虚構空間への移動

- バーチャルオフィス
- オンライン飲み会
- 無観客配信ライブ・コンサート…etc

◆「身体的」か「精神的」かの違いはあっても、人は変わらず移動している（=トリップ数は変わらない）

（むしろ増加しているかもしれない…？）

「身体的移動」と「精神的移動」の選択

◆アフターコロナに向けて、冗長性ある社会が必要（西田亮介）

- 人間らしく生きられる、より良い社会の構築には、
「身体的移動」と「精神的移動」を選択できることが不可欠
 - ▶「選択」の話は、前回フォーラムの後藤玲子先生のご講演にも通じる

◆「身体的移動」を選択してもらおう、「しよう」の根源が、 目的地で得られる「体験」（身体的特権・時間-空間的限定性）

- 「諦めている人に再びおでかけしてもらおう／おでかけの大切さに気付いてもらおう」取り組みは、身体的移動を選択してもらおう、アフターコロナの「おでかけ（公共交通利用）促進」の考え方のヒント

「身体的移動」を選択してもらうために

公共交通のような人々の毎日の営みに依拠する移動手段においては、非日常で刺激的な「体験」ではなく、ごくありふれた、しかし人間の本質を突いた「体験」、すなわち「交流」につながる「移動」を提供することが、これからの「おでかけ促進」や「公共交通利用促進」に必要だと考えています。

それができなければ、「身体的移動」の価値は見出されず、いずれ「精神的移動」に置き換わっていくかもしれません。

○ 参考

- ▶ ESTメルマガ Vol.178 「移動の価値は—社会学の視点から考える—」
(http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.178.pdf)